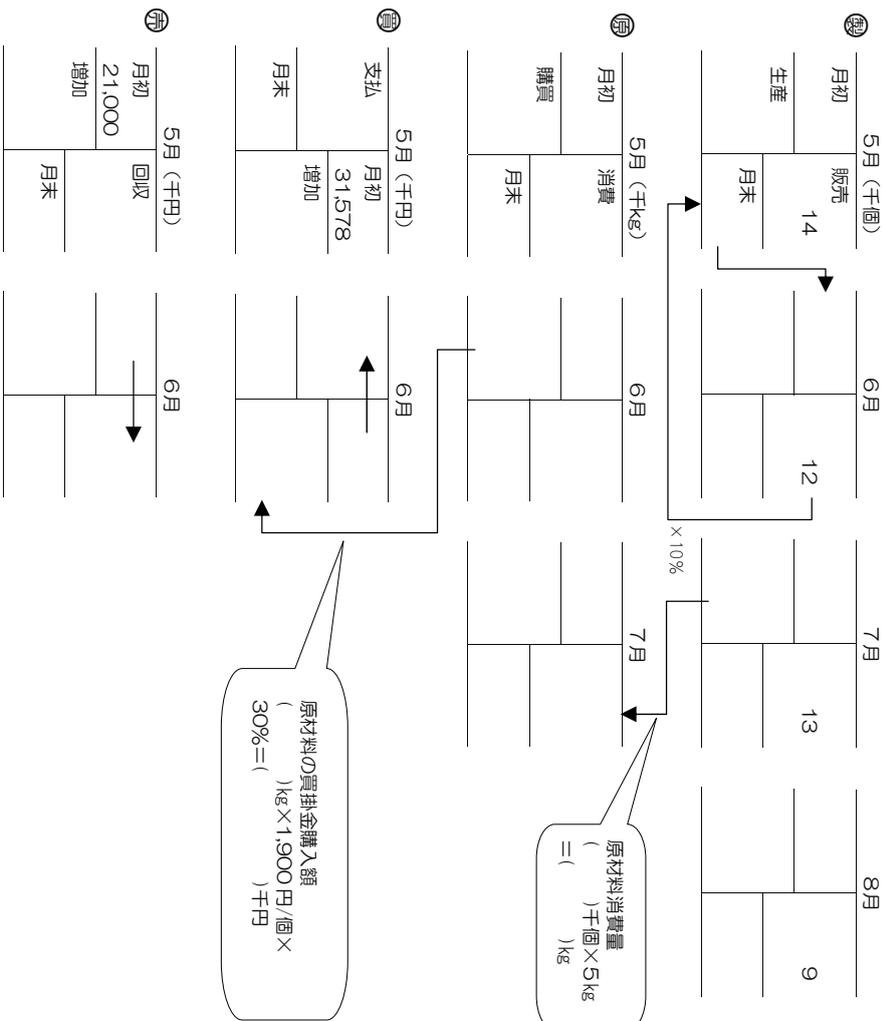


合格アシストノート ウラ予想 工業簿記

1 計画販売量から製品・原材料・買掛金・売掛金の月末残高を計算します。



2 現金の収支計算表から借入金と支払利息を計算します。

| | 5月 | 6月 |
|--------------|--------|----|
| 月初 | 70,000 | |
| 現金売上 | | |
| 売掛回収 | | |
| 収入計 | | |
| 現金仕入 | | |
| 買掛支払 | | |
| 変動費(直材以外)計 | | |
| 固定費計 | | |
| 土地取得 | | |
| 支払利息(新規借入以外) | | |
| 支出計 | | |
| 差引 | | |
| 支払利息(新規借入) | | |
| 借入・返済 | | |
| 月末 | | |

合格アシストノート ウラ予想 工業簿記

合格アシストノート ウラ予想 原価計算

1. 代替材料への切替えの可否(完全操業状態の場合)
 全体の流れを考慮して、次のような手順によるとスムーズに解を導くことができます。
 1. 製品X 1個あたりの直接労務費から、材料αを使用した場合に比べて、材料βを使用すると直接作業時間が()分の()に短縮されることからわかります。
 したがって、材料βを使用すれば材料αを使用する場合と比較して()倍の量の製品Xを製造することができそうです。
 つまり、材料βを使用して製品Xを製造開始した後に、材料αを使用して製品X 1個を製造するとして場合には、材料βによる製品Xの製造を()個犠牲にすることになります。

2. 本問では、完全操業状態のもとで製品製造を行っているため、()と()は、それが変動費であるか固定費であるかにかかわらず、無関係原価(埋没原価)となります。

材料βによる製品X 1個の製造を犠牲にした場合に失う利益額：
 @ ()円 (= @ ()円 (販売価格) - @ ()円 (材料βの購入価格))

3. 材料αは今後も3,000円/個で購入可能です。そのため、材料αを使用した場合の製品X 1個あたりの直接材料費より、()個の材料αを消費して製品Xを製造していることがわかります。
 したがって、材料αを使用して製品X 1個を製造・販売した場合に、材料αを消費しなければ得られたいはずの材料αの売却収入は()円 (= @ 1,500円 (材料αの売却価格) × ()個) となります。

4. 仮に材料βによる製品Xの製造・販売を開始した後に、在庫にある材料αを用いて製品X 1個を製造することの機会原価は()円 (= @ ()円 × ()個 + ()円) となります。
 上記の1.と2.より 上記3.より

5. A案の採用可否の検討
 在庫にある材料αを用いて製品X 1個を製造する案の差額利益を計算します。
 差額利益 ()円 (製品Xの販売価格)
 機会原価 ()円
 差額利益 ()円

6. A案が有利となるための製品Xの販売価格の条件
 製品Xの販売価格をSとおくと、

$$(S - ()円(材料βの購入価格)) \times ()個 + ()円 < S$$
 差額利益

$$\therefore S < ()円$$

2. 連産品の追加加工の可否についての意思決定
 1. 各製品の追加加工によって増加する収益の計算
 (1) 連産品Aを追加加工して販売する場合は差額利益

売上高 ()万円*1
 追加加工費 ()万円*4
 差額 ()万円
 そのまま販売 ()万円*3
 差額 ()万円

*1 @4,500円(製品Xの販売価格) × ()kg*2 × 0.8(第2工程の歩留率) = ()万円
 *2 第1工程の連産品Aの生産量：20,000kg × $\frac{5 \text{ kg(連産品A)}}{10 \text{ kg(原料α投入量)}}$ = ()kg
 *3 @3,000円(連産品Aの販売価格) × ()kg = ()万円
 *4 @1,500円(変動製造間接費) × 0.2時間(投入量1kgに対する加工時間) × ()kg = ()万円

(2) 連産品Bを追加加工して販売する場合は差額利益
 売上高 ()万円*1
 追加加工費 ()万円*4
 差額 ()万円
 そのまま販売 ()万円*3
 差額 ()万円

*1 @8,000円(製品Yの販売価格) × ()kg*2 × 0.6(第2工程の歩留率) = ()万円
 *2 第1工程の連産品Bの生産量：20,000kg × $\frac{3 \text{ kg(連産品B)}}{10 \text{ kg(原料α投入量)}}$ = ()kg
 *3 @4,000円(連産品Bの販売価格) × ()kg = ()万円
 *4 @1,500円(変動製造間接費) × 0.3時間(投入量1kgに対する加工時間) × ()kg = ()万円

合格アシストノート ウラ予想 原価計算

2. 希少資源単位あたりの利益
 連産品Aを追加加工する場合は()万円 ÷ (0.2時間 × ()kg) = ()円/時間
 連産品Bを追加加工する場合は()万円 ÷ (0.3時間 × ()kg) = ()円/時間
 よって、連産品()を優先的に追加加工し、生産余力で連産品()を追加加工すればよいということになります。

3. 最適な追加加工の決定
 連産品A()kg
 連産品B()kg

4. 差額原価利益分析
 (1) 連産品Aの追加加工による差額利益
 連産品Aはその全量追加加工されるため、上記1.(1)と同じ計算結果になります。
 (2) 連産品Bの追加加工による差額利益

一部()kgを
 追加加工して販売 ()万円*1
 ()万円*4
 そのまま販売 ()万円*3
 差額 ()万円*5
 ()万円*4
 ()万円

*1 追加加工のうえ販売する分：@8,000円(製品Yの販売価格) × ()kg × 0.6(第2工程の歩留率) = ()万円
 追加加工されずに販売する分：@4,000円(連産品Bの販売価格) × ()kg*2 = ()万円
 合計 ()万円 + ()万円 = ()万円
 *2 6,000kg(連産品Bの生産量) - ()kg(追加加工分) = ()kg
 *3 @4,000円(連産品Bの販売価格) × ()kg = ()万円
 *4 @1,500円(変動製造間接費) × 0.3時間(投入量1kgに対する加工時間) × ()kg(追加加工分) = ()万円
 *5 追加加工されずに販売する分の売上高である()万円は、いずれにおいても発生するため、それを除いて計算しても差額利益の金額は同じになります。

計 算 用 紙

半分に切ってお使いください

計 算 用 紙

半分に切ってお使いください

